

新表現の使用に対して母語話者が感じる不適切感 －依頼場面の表現を例に－

鶴田 庸子

要旨

ある表現のある場面での使用が対人的に適切なものであるかどうかに関する情報を学習者に提供する授業活動は、日本語の表現として定着してすでに長く使われてきている伝統的表現についてだけでなく、比較的新しく出現した「新表現」についても行なわれる必要がある。日本語を使い始めて日の浅い学習者は、熟練日本語話者が伝統的表現について持っている知識と情報を共有することが困難な立場にあり、また、新表現を新表現であると認識する機会にめぐりあわない可能性があるために、熟練日本語話者が新表現の使用に対してどのような不適切感を持つかを知ることが困難である場合があり、そのことが原因で、不適切な印象を与える発話を、それと気づかずに行なってしまう可能性がある。そのような発話を未然に防ぎたいと思っている学習者への支援として、新表現を新表現であると知ることができるよう援助すること、および、新表現のさまざまな場面での用法に対して熟練話者がどのような不適切感を覚える可能性があるかについての情報を伝えることが挙げられる。後者の支援の実現に必要な情報収集の方法を探るために行なった小規模意識調査の結果は、熟練母語話者が新表現について持つ不適切感が多様で変異の大きいものであることを示した。

キーワード：発話の不適切さ、ポライトネス、言語変化、言語意識、新表現

はじめに

言語によるコミュニケーションでは、聞き手が発話者の意図と異なる意味を受け取って不快感や違和感を感じることがある。その原因は、談話構造の不明瞭さ、韻律上の特徴のほか、スピーチスタイルといった発話者の「個性」に属する要因などさまざまである。発話者が学習者である場合は、それに加えて、日本語の語用論的知識の不足が原因で、はかrazuも聞く人に不快感や違和感を与えてしまう発話を行なうことがある。そのような事態を避けたいと考えている学習者の支援をめざす発話の対人的適切さの教育は日本語教育の主要な話題のひとつとなって久しい。しかし、何が適切で、何が不適切かは、あらゆる言語の例にもれず、日本語においても常に変化している。新しい言語形式の登場、あるいは、以前から使われている言語形式への新しい用法の追加といった変化は絶え間なく起きている。したがって、日本語が使われている環境で日本語を習得しつつある学習者がそうした言語形式や用法の出現に立ち会う確率は低くないと考えられる。そのような場面で学習者が必要とする情報や知識を提供することも日本語教師にできる学習者支援のひとつである。本稿では、日本語を使い始めて日の浅い学習者が周囲で起こる言語変化に対処しようとす

るときにどのような困難があるかを考察し、彼／彼女らが意図に反して不適切な発話を行なってしまうことを防ぐのに必要な情報の一端を具体的に知るために依頼場面で使われる新表現を例として行なった小規模データ収集から見えてくる日本語教師にできる支援のあり方を検討する。

1 「新表現」とその新奇さ

新しく出現した言語形式、あるいは用法がたどる道として一般に次のふたつが考えられるだろう。

- ① 時間の経過とともに多くの使用者を得て日本語の一部として受け入れられる
- ② 使用者が増えず、あるいは減って、やがて消えていく

①の場合、その新しい言語形式・用法は存続するが、日本語話者に「新奇な日本語」と感じられることがなくなっていくだろう。一方、②の場合は、言語形式・用法自体が存在しなくなる、あるいは、死語として存続する。しかし、このふたつの最終段階のいずれかに到る前に、その言語形式・用法が依然として存在しており（つまり、それを使う人が存在し）、かつ、それに新奇さを感じる人が依然として一定数存在しているという言語変化の段階があり得る。この段階にある言語形式と用法の両方を含めて、以下「新表現」と呼ぶことにする。本稿では、また、新表現を、①の道をたどった言語形式・用法と対比しつつ議論を進める。そこで、新表現の対立概念として、①の結果、新奇と感じられなくなった言語形式と用法の両方を含めて「伝統表現」と呼ぶことにする。

通常、日本語教育のシラバスに含まれる表現は伝統表現がほとんどである¹。本稿が焦点を当てようとする新表現とは、学習者の立場に立つと、どのような特徴をもつ習得対象なのだろうか。以下で行なうように新表現の特徴である新奇さの特徴を検討してみると、新表現の使用のしかたによって意図に反して対人的に不適切な発話を行なってしまう可能性は、学習者だけでなく、あらゆる日本語話者にあること、特に、日本語を使ってコミュニケーションを行なっている期間が相対的に短い母語話者には学習者と同じようにあること、そのような発話を不適切と感じるかどうかには、聞き手が伝統表現についてどのような知識と情報をもっているかが関係すること、そのような知識を共有しない話者にはその不適切さは理解できない可能性があること、さらに、新表現の使用による意図せぬ不適切発言を回避するためには、新表現を新表現であると認識することができるかどうかが重要であることがわかる。

¹ 興味深いことに、その一方で、母語話者に対しては伝統表現、および、死語の理解と維持の奨励が各種メディアで行われる（例：「ことばおじさん」NHK 教育テレビ）

1.1 新表現と話者の日本語使用歴

新表現の新奇さとは、一様の印象や状態ではなく、少なくとも次の3種類を区別することができるだろう。(a)「面白い」、「かっこいい」といった肯定的な印象、(b)「違和感がある」、「不適切だ」、「失礼だ」といった否定的な印象、そして、(c)その意味するところが全く、あるいは十分には、理解できない状態である。熟練日本語話者（長期間にわたってコミュニケーションに日本語を使っている話者。母語話者とは限らない。以下同）が日本語の新表現に対してこれらの新奇感を抱くとき、彼／彼女らが伝統表現の文法規則や用法などについて持っている知識を参照していることが少なくないだろう。例えば、敬語の新表現である[大勢のお客様が来テイタダキマシタ]に違和感を覚える話者は、伝統表現である[大勢のお客様ニ来テイタダキマシタ]あるいは[大勢のお客様が来テクダサイマシタ]を参照している可能性が高いだろう。また、2000年代半ばごろに現れたとみられる[フツウニおいしい]を食物の味を褒める表現として使うことについて、なぜそれが褒める表現として機能し得るのかが理解できない話者も、フツウの伝統的用法をなんらかのかたちで参照している可能性がある。

熟練話者が持ち、一般に「語感」とも呼ばれることのあるこうした知識と反応は、その話者自身が新表現にどう対処するか（つまり、新表現を使うかどうか、および、使う場合は、どのように使うか。以下同）の決定に関与すると考えられるが、それだけでなく、自分以外の話者の新表現への対処のしかたとの比較を通して、ある新表現を使う話者と使わない話者がいるという認識、および、それを使うのがどの集団で、使わないのがどの集団であるかといった、新表現の使用グループについての知識を形成するなど、彼／彼女らの新表現との関係のしかた全般に影響を及ぼすだろう。

新表現にどう対処するか決定において、熟練日本語話者がこのように、自らが伝統表現について持っている知識を参照していると考えられるのに対して、学習者を含む日本語でのコミュニケーション歴の短い話者は、参照すべき伝統表現についての知識を持たない可能性、および、その結果、熟練話者が行なう伝統表現の参照作業を行なわない可能性があり、ある新表現について熟練話者が感じる否定的印象を共有しないことがあり得る。さらに、日本語でのコミュニケーション歴の短い話者には、伝統表現の参照を行なえない原因となり得るもうひとつの要因がある。それは、彼／彼女らにとって見聞きするすべての表現が新奇であって、新表現を新表現であると認識する機会がない場合である。新表現を新表現であると認識することは、学習者が新表現に対する対処をし始めるための重要な出発点であるが、彼／彼女らはその出発点に立つチャンスを与えられないかもしれない立場にあるといえる。

以上のことから、学習者を含む日本語でのコミュニケーション歴の短い話者は、熟練話者が持っている知識と情報へのアクセスを制限されている話者であり、そのことが原因で自らの新表現の使用が熟練話者にどのような印象を与えるかを予想する手段が制限される

ことがあり得る。そのため、自身が新表現にどう対処するか判断において、自分の意図したとおりの選択が行なえず、結果として、自らの意図に反して相手を不愉快にする不適切な発話を行なってしまう、あるいは、ある新表現を使うのが自然な集団（例えば特定の年齢層）に属していないにもかかわらずそれを使って、意図に反して違和感を与えてしまうなどの可能性がある。

2 新表現が与える否定的印象に関する情報の提供

2.1 学習者に必要な情報

前節で述べたような特徴をもつ新表現に学習者が遭遇したときに、伝統表現を使うほうが無難だから、あるいは、それが「正しい日本語」だからという理由で新表現の使用を勧めない方針を採ることは教師にとっての選択肢のひとつであるだろう。一方、話者の世代や性別による変異や日本語の地理的変異にどのように対処するかは学習者自身が決めることであるとし、教師は彼らがその意図のとおり的確に選択が行なえるよう援助を行なう立場にあるとする方針もある。以下、後者の方針を採った場合に、意図しない不適切発話を避けつつ新表現を使いたいと考えている学習者の支援として教師にできることは何かを考える。

そのような学習者に対する支援のひとつは、1.1 で検討したように、新表現が新表現であることを告知することである。ある新表現を新表現であると認識することは、学習者自身がその新表現にどう対処するか決定するために不可欠のステップである。もうひとつの支援には、熟練日本語母語話者が新表現について持つ新奇感に関する情報の提供があるだろう。新表現について熟練話者がどのような新奇感を持つか、特に、「失礼」、「不愉快」などの否定的な印象を引き起こし得る表現は何か、それは具体的にどのような印象か、新表現に対する反応の話者による変異はどのようなものか、例えば世代、性別などと相関のある変異があるのかといった情報を伝えることができれば、聞き手を不愉快にすることなく新表現を使いたいと考えている学習者にとって有用だろう。

学習者にそのような情報を伝えるためには、熟練日本語話者が新表現の使用に対して持つ新奇感を把握する必要がある。ある表現が気になるかどうかを母語話者に尋ねた調査には、文化庁による一連の調査「国語に関する世論調査」（たとえば、「平成 14 年度国語に関する世論調査」）などがある。しかし、対人的に不適切な「発話」を避けたいと考える話者に役立つものであるためには、ある新表現がどのような場面で使われたときにどのような不適切さを引き起こすのかに関して可能な限り詳細な情報が含まれていることが望ましい。そうした情報を得るための調査を行なう必要があると考え、そのような調査はどういった形で行なうのが適当かを探るパイロット調査として以下に述べるインフォーマルな小規模調査を行ない、結果を得た。

2.2 新表現に対する日本語母語話者の意識調査

2.2.1 調査の概要

5つの新表現について、その使用に対して日本語母語話者が持つ新奇感にはどのようなものがあるのかをアンケート調査で探った。調査者が周囲の母語話者との個人的会話、および、日本語教育ボランティアグループとの会合で行なった対人的に不適切な発話についてのディスカッションの結果、対人的適切さの問題を感じる母語話者がいることが2007年夏までに観察でき、したがって、本稿でいう「新表現」であるとみなすことができる表現のなかから、留学生がその用法の対人的適切性について関心を持つことが多い、依頼場面で使われる5つの新表現を例に調査を行なうこととした。それぞれの新表現の使用を、ある場面で行なわれた発話であるとの設定で回答者に提示し、その発話から受ける印象を3つの選択肢「感じが良い」「自然だ」「感じが悪い」²から選択してもらった。加えて、多角的データ収集の試みとして、設定された文脈で回答者自身がその表現を使うかどうかを「使う」「使うかもしれない」「使わない」から選択して回答してもらい設問も設け、それぞれ、「感じが悪い」あるいは「使わない」とされたものについては自由記述のコメントを求める質問紙を作成した（付録に掲載）。新表現の使用場面の設定では、メールでのコミュニケーション場面を選んだ。これは、回答者の評価において韻律的情報が影響することを排除して、極力、言語形式だけに着目した評価を収集することを目指したためである。

2.2.2 新表現としてとりあげた表現

～ていただいて（も）いいでしょうか（場面A②）

～ていただけると助かります（場面A③）

～ていただけると助かるのですが、お願いできるでしょうか（場面A④）

言語形式、[助かります／助かる]については、次のような、謝礼場面での使用についての印象も尋ねて、依頼場面の結果との比較を行なった。

～て、本当に助かりました（場面B）

これらの表現の発話場面の設定は、次のようなふたつの設問として回答者に示した。

² 回答者が適切さ・不適切さを評価する際に選ぶ選択肢の表現に「丁寧だ」「失礼だ」ではなく「感じが良い」、「感じが悪い」を使ったのは、前者、特に「丁寧」が非常に多義的で、聞き手との社会的距離に照らしての適切さを想起しやすい語であるため、語用論的適切さについてのデータ収集を目指す本調査の選択肢としては、「感じが良い」、「感じが悪い」がより適当であると判断したためである。

場面 A

あなたの所属している NPO 団体が、今日の午後、メンバーに対する研修活動の一環として講演会を開きます。あなたも講演を聞きに行くつもりです。その団体の友人である A さんから、今、次のようなメールが届きました。(A さんとあなたは、上下関係のない対等な関係で、1 年間程度のつきあいがあり、ある程度親しい間柄です) A さんは講演会の講師を午後 1 時に駅で出迎えて講演会場まで案内する係になっています。

なお、あなたの自宅と講演会場はいずれも駅から 1 キロメートルの範囲内です。

【メール文】

朝早くすみません。実は親戚に不幸があって今から長野に行かなければならなくなりました。それで、米山先生の出迎えに行けなくなってしまったのですが、申し訳ありませんが、

- ① 代わりに行っていただけないでしょうか。
- ② 代わりに行っていただいて (も) いいでしょうか。
- ③ 代わりに行っていただけると助かります。

場面 B

あなたは今月からあるサークルに入会し、今日、その 3 回目の集まりに来ました。前回、偶然に隣の席に座った B さん (あなたより 7~8 歳ほど年下のようです) に傘を貸しました。あなたが会場に入ると、B さんが傘を持って近づいてきて、「先週はどうもありがとうございました。お陰様で濡れずに済んで本当に助かりました」と言いました。_____部分の表現についてあなたはどのように感じますか。

話者の世代による回答の変異についての情報を得ることを重視して、「若年層」として大学生の、「年長層」として 30 歳以上の、いずれも日本語母語話者に回答してもらうこととした。都内の複数の大学の大学生から無作為に選んだ 120 名、および、30 歳以上の日本語を母語とする男女から無作為に選んだ 120 名に 2007 年 10 月から 11 月にかけて回答を依頼し、以下のような 87 名から回答を得た。

1984 年以前出生 : 43 名 (女 : 34 名、男 : 6 名)	1985 年以後出生 : 43 名 (女 : 38 名、男 : 9 名)	出生年不明 : 1 名 (男)
---	---	-----------------

2.2.3 調査結果

考察項目

回答者の性別および出身地が回答の解釈に有用な情報をもたらすことを期待して、調査票でそれらの属性を尋ねたが、残念ながら調査規模が小さく、回答者のこれらの属性とそ

の新奇感との間に信頼すべき相関関係を見いだすことは不可能と判断した。そのため、この2種類のデータは、回答一覧（「新表現」に対する母語話者の意識調査 2007）に示すが、以下の調査結果の考察では、考察対象から外す。また、回答者が「感じが悪い」あるいは「（自身は）使わない」とした新表現の使用について、その理由として「当然行なわれるべきである前置きがされていない」といった談話構成上の問題が指摘されたもの、発話例として示したものに文体上の不統一があることの指摘、および、場面設定に問題があると指摘されたものがあった。いずれも今後の調査表作成に役立てるべき貴重な指摘だが、以下では、本稿の目的である、新表現の使用に対して母語話者が感じ得る新奇感、特に否定的な印象にはどのようなものがあるかを中心に考察する。

回答結果

A① 行っていただけではないでしょうか

回答者に評価してもらう表現のなかにこの表現を含めることを決めたときの調査者の意図は、回答者による新表現の評価が伝統表現の評価とどのように異なるかを知ることを目的に、新表現でない表現が与える印象も評価してもらうということであった。すなわち、A①が回答者たちによって伝統表現ととらえられるものと想定し、それに疑いを持たなかった。しかし、回答のなかには、この表現を「感じが悪い：上目線だから」のように評価するものがあった。A①は必ずしも伝統表現ではなかったのである。

A② 行っていて（も）いいでしょうか

A①と比べて、この表現をより感じが良いとする回答はなかった。A①と比べてこの表現をより感じが悪いとしない回答はどの世代層にもみられたが、年長層（1984年以前出生）より若年層（1985年以後出生）に多くみられる傾向が認められた。

A①と比べて、この表現をより感じが悪いとする回答者のコメント内容には、次の(1)～(3)のタイプが認められた。

A②コメント(1) 相手へ負担を認識していることの表明があるべき場面でそれが欠けていることの指摘、かつ・または、相手に選択権を与えるべき場面で与えていないことの指摘：「命令的／強制的だ」「行ってくれることを前提にしている」、「相手が依頼に応じることを当然視している」、「断りにくい」など。このタイプのコメントは、若年層にも年長層にも共通してみられた。

A②コメント(2) 冗長さ、場面に求められる程度を超えた社会的距離や遠慮が表明されていることの指摘：「まわりくどい」、「へりくだりすぎている」、など。このタイプのコメントも若年層にも年長層にも共通してみられた。

A②を感じが悪いと評価した回答者がその理由として A②(1)と A②(2)のうちどちらを挙げたかとその回答者の世代との間に相関関係は認められなかった。

A②コメント(3) 世代差や特定の職業グループなどを連想させることの指摘：
「私の世代では使わない」、「違和感がある」など。いずれも年長層によるコメント。

A③ 行っていただけると助かります

A①と比べて、この表現をより感じが良いとした回答者は少なかったが、年長層より若年層により多くみられた。「自然：相手に返答の選択権があることを示している感じ」とする肯定的なコメントが若年層に 1 件あった。

A①と比べてこの表現をより感じが悪いとしない回答は若年者に多かった。

A①と比べて、A③をより感じが悪いとした回答者のコメント内容には次の(1)～(3)のタイプが認められた。

A③コメント(1) A②コメント(1)と同様の指摘：「上から目線の感じ」など。

A③コメント(2) A②コメント(2)に類似の指摘：「行って欲しいのだからはっきり言うべき」など。このタイプの指摘は、若年層により多かった。

A③コメント(3) 「助かる」という言語形式に問題を感じることの指摘：「『いただけると助かる』は高圧的」「『助かる』という表現に素直な依頼を感じない」など。

一方で、「『助かります』という部分が特によい」との指摘もあった。

A④ 行っていただけると助かるのですが、お願いできるでしょうか

A①と比べて、A④をより感じが良いとした回答者は若年層にも年長層にもみられたが、若年層により多かった。

A④に対して、A③に対する評価と同じ評価を行なう回答者が多数いる一方で、A④とは異なる評価をする回答者もあった。A③より高い評価を A④に与えた例には、「『お願いできる』とつくことで③よりは素直さを感じる」というコメントがあった。

一方、A③より低い評価をした例には、卑屈な印象を受けるという主旨と思われる「へこへこしている」というコメントがあった。

また、A③コメント(3)と同様の指摘もあった。「『助かる』という言葉が偉そう」など。

B (お蔭様で濡れずに済んで本当に) 助かりました

この謝礼場面での「助かりました」の使用を感じが悪いとする回答者は、依頼場面で使用された「助かります」(場面 A③) と比べて少なかったが、「濡れずに済みましたとするほうがよい」および『「助かりました」が偉そうに感じる』とのコメントがあった。

3 調査結果の示唆と今後の課題

本調査からは以下の諸点が読みとれた：

- ある新表現に対して母語話者が不快感を覚えるかどうかは、必ずしも、その新表現が不快感を与えるものであるかどうかによるとは限らず、使用場面との関係によると考えるべきであることが再確認された (場面 A③と場面 B の結果の比較)。
- 本調査で取り上げた新表現の使用に対して母語話者が感じる不適切感は多種多様であること、および、話者の評価の変異の幅が大きいことが、小規模な今回の調査結果からもみてとれた。設定した同一の場面での同一の新表現の使用に対する母語話者の評価には大きな変異がみられた。また、同じ場面での同じ新表現の使用に対して「感じが悪い」という同一の評価をした場合であっても、その理由は異なる場合があった。例えば、ひとは相手が依頼に応じるだろうとの予断を持って決めてかかっている点が不適切であるとするのに対して、別の回答者は依頼のしかたが過剰に遠慮深い点が不適切だと感じているというような場合である。前者に対してと後者に対してとでは、発話によって不適切感を与えることを防ぐために採るべき方策が異なるだろう。このように、新表現に対処しようとする学習者に伝えるべき情報は大量、かつ複雑なものになる可能性がある。

それを学習者に効率的に伝える方法が何であるのかを知るために、今後、まず行なってみるべきことは、こうした話者の評価の変異の性質をさらに詳しく知ることである。今回の調査では、新表現の使用に対する評価の変異と話者の世代との間に一定の相関関係が認められるもの (例えば、A②) と、評価の変異との相関関係を特定できる軸が容易には発見できないもの (たとえば A②を感じが悪いと評価する理由として「命令的」を挙げるかそれとも「まわりくどい」を挙げるか) があった。このうち、前者の変異については、その法則性を伝えることが学習者にとって非常に有用となるだろう。A②でいえば、依頼場面で A②を使うことに対して年長層は若年層より不快感を持つ可能性が高い傾向があると伝えることで、年長者の話者に不適切感を与えることを回避するのはかなり容易になるだろう。一方、同じく A②に対して、命令的で不適切だと感じるか、それとも、まわりくどい／へりくだりすぎで不適切だと感じるかが世代と相関関係をもつという証拠は見つからなかった。ここで、その相関関係が見つからなかった原因が、相関関係がないからな

のか、それとも、ほかの原因（たとえば、今回の調査の規模が小さすぎたために明瞭なデータとして表れなかった）なのかを、より大規模な調査によって確かめる必要がある。そのうえで、実際に、相関関係のある軸が特に見いだせない場合、すなわち、個人差によるところが大きい変異が存在することが確かめられた場合には、そのような変異を学習者にどのように提示することができるかという問題に取り組む必要があるだろう。

以上のほかに、新表現の使用が引き起こす不適切感を日本語教育の現場で、かつ・または、調査対象として扱おうとする際に教師・調査者が日本語の母語話者である場合に留意すべきこととして、今回の調査結果を通して気づいた、次の 2 点を記しておきたい。

- 伝統表現の用法の対人的適切さの指導では一日本語母語話者である教師が自らの語感だけをよりどころとして行なうことでも、ある程度の効果を上げることができるが、新表現の用法の対人的適切さの指導は、今回の調査で明らかになったように、語話者の感じる新奇感に非常に大きな変異がみられることから、一母語話者である教師が自身の語感にのみ基づいて行なうことで十分な結果を得ることは容易でなく、なんらかのデータ収集に基づく必要があると考えられる。
- 日本語の使用について日本語話者が持つ語感を日本語教育で扱おうとするとき、あるいは、それを調査しようとするときに、教師／調査者が日本語の母語話者であることは、さまざまな面で有利に働くだらう。しかし、同時に、母語話者であることで日本語について自らが持っている語感から自由になれないという状況を作り出すことがあり、それが日本語教育の場面で、あるいは調査の過程で障害となる可能性もある。

(つるた ようこ 留学生センター教授)

付録

依頼および謝礼場面で使われる表現に関するアンケート

以下に、**A**から**F**までの6つの場面で様々なコミュニケーション場面が示されます。各場面にあなた自身がおかれたと想像して、他の人の言葉の使い方についてどう感じるか、あるいは、どんな言葉を使うかを答えてください。

場面 A

あなたの所属している NPO 団体が、今日の午後、メンバーに対する研修活動の一環として講演会を開きます。あなたも講演を聞きに行くつもりです。その団体の友人である A さんから今、次のようなメールが届きました。(Aさんとあなたは、上下関係のない対等な関係で、1 年間程度のつきあいがあり、ある程度親しい間柄です) Aさんは講演会の講師を午後 1 時に駅で出迎えて講演会場まで案内する係になっています。

なお、あなたの自宅と講演会場はいずれも駅から 1 キロメートルの範囲内です。

メール文の中の _____ 線部の表現のそれぞれについてあなたはどのように感じますか。{ } 内の選択肢から 1 つ選んで○で囲んでください。「感じが悪い」を選んだ場合は、どんな種類の感じの悪さを「その理由」欄に書いてください。(例:ぶっきらぼう、まわりくどい、命令口調、違和感がある、など)

また、_____ 線部の表現について、気づくことが他にもあれば、「その他のコメント」欄に書いてください。

【メール文】

朝早くすみません。実は親戚に不幸があって今から長野に行かなければならなくなりました。それで、米山先生の出迎えに行けなくなってしまったのですが、申し訳ありませんが、代わりに

- ① 行っていたけないうか。(後略)

{感じがよい・自然だ・感じが悪い}

感じが悪い場合は、その理由→_____

その他のコメント→_____

Aさんのメール文の _____ 線部に次の②～④の表現が使われていたら、どう感じますか。

- ② 行っていたいて (も) いいでうか。

{感じがよい・自然だ・感じが悪い}

感じが悪い場合は、その理由→_____

その他のコメント→_____

③ 行っていただけると助かります。

{感じがよい・自然だ・感じが悪い}

感じが悪い場合は、その理由→ _____

その他のコメント→ _____

④ 行っていただけると助かるのですが、お願いできるでしょうか。

{感じがよい・自然だ・感じが悪い}

感じが悪い場合は、その理由→ _____

その他のコメント→ _____

(以下、**場面 E** まで **場面 A** と同じ要領で回答してください)

場面 B

あなたは今月からあるサークルに入会し、今日、その 3 回目の集まりに来ました。前回、偶然に隣の席に座った B さん（あなたより 7～8 歳ほど年下のようです）に傘を貸しました。あなたが会場に入ると、B さんが傘を持って近づいてきて、「先週はどうもありがとうございました。お陰様で濡れずに済んで本当に助かりました」と言いました。_____ 部分の表現についてあなたはどう感じますか。

{感じがよい・自然だ・感じが悪い}

感じが悪い場合は、その理由→ _____

その他のコメント→ _____

アンケートは以上です。

最後にあなた自身について教えてください。

性別 {女性・男性}

20 歳までを過ごした主な場所（都道府県名） _____

生まれた年

{大正 5 年～9 年・大正 10 年～14 年・昭和 1 年～4 年・昭和 5 年～9 年・

昭和 10 年～14 年・昭和 15 年～19 年・昭和 20 年～24 年・昭和 25 年～29 年・

昭和 30 年～34 年・昭和 35 年～39 年・昭和 40 年～昭和 44 年・

昭和 45 年～49 年・昭和 50 年～54 年・昭和 55 年～59 年・昭和 60 年～平成 4 年}

ご協力くださり、ありがとうございました。

新表現に対する母語話者の意識調査（2007 秋調査結果）

回答者	生年区分	性別	出身地	A①	A②	A③	A④	B
64	1985-1999	女	東京	自然	悪い：断れない感じ	良い	良い	良い
65	1985-1999	女	東京	自然	悪い：強制に感じる	良い	自然	自然
36	1985-1999	男	東京	自然	自然	悪い：上から目線の感じがする	悪い：助かるという言葉が偉そうに感じる	悪い：「助かりました」偉そうに感じる
37	1985-1999	男	埼玉	十分に丁寧な言い方だと思います	悪い：行けと催促されている感じがする	良い	自然：自然ではあるが親しい仲ではあまり使わないのではないかと思います	悪い：濡れずに済みましたと言ったほうがいいのではないかと思います
39	1985-1999	女	東京	自然	自然	自然	悪い：違和感がある	良い
40	1985-1999	女	神奈川	自然			良い	良い
41	1985-1999	女	神奈川	自然	悪い：不自然	自然	悪い：へこへこしている	自然
42	1985-1999	男	東京	良い	自然	自然：遠回しな感じがするので伝わりにくいと思います	良い	自然
44	1985-1999	男	東京	自然：とても丁寧	悪い：少し断りづらいと思いました	悪い：断りづらいから	DK	自然
45	1985-1999	女	埼玉	自然	自然	自然	自然	自然
46	1985-1999	女	千葉	自然	DK：いただいてもよろしいでしょうか	自然	良い	自然
47	1985-1999	男	山形	自然	自然	自然	自然	良い
48	1985-1999	男	千葉	自然	悪い：上から言われているような気がする	自然	良い	自然
49	1985-1999	男	千葉	自然	悪い：不自然な感じがする	悪い：行っただけのだから、はっきり言うべき	悪い：～ですが、お願いできますでしょうか？が自然だと思う	良い
50	1985-1999	男	神奈川	自然	自然	自然	悪い：なんとなく	自然

回答者	生年区分	性別	出身地	A①	A②	A③	A④	B
53	1985-1999	女	東京	自然	自然	悪い：もっと お願いの気持ち を込めるべき	良い：すごく 丁寧に言っ て良い	自然
54	1985-1999	女	千葉	自然	自然	自然	自然	自然
55	1985-1999	女	栃木	良い	自然	自然	良い	良い
56	1985-1999	女	千葉	自然	自然	自然	良い	自然
57	1985-1999	女	千葉	自然	良い	自然	悪い：しつこ い	自然
58	1985-1999	女	千葉	良い	良い	自然	良い	自然
59	1985-1999	女	千葉	良い	良い	自然	良い	良い
60	1985-1999	女	新潟	自然	自然	自然	自然	自然
61	1985-1999	女	山形・ 千葉	自然	自然：いただ いてもよろし いでしょうか	自然	良い	自然
62	1985-1999	女	千葉	自然	良い	自然	良い	自然
63	1985-1999	女		自然	悪い：行っ てもらうのが 当たり前な感 じがします	悪い：断りに くい言い方な ので	良い	良い：感謝さ れて嬉しい気 持ちになりま す。
66	1985-1999	女	千葉	良い	良い	自然	自然	自然
67	1985-1999	女	千葉	良い	悪い：よろし いでしょうか？	自然	良い	自然
70	1985-1999	女	東京	良い：いただ けますでしょ うか	良い：いただ いてもよろし いでしょうか	良い	良い：助かる のですが、お 願いできます でしょうか	自然
71	1985-1999	女	神奈川	自然	自然	悪い：助かる という表現に 素直な依頼を 感じない	自然：お願 いできるとつ くことで③よ りは素直さを 感じる	自然
72	1985-1999	女	千葉	自然	悪い：なんか、 わざとらしい	自然	良い	自然
73	1985-1999	男	千葉	自然	自然	悪い：いや みたらしい	良い	良い
74	1985-1999	女	神奈川	自然	自然	悪い：もうす でに行く前提 で聞いている 感じがある	自然	自然
75	1985-1999	女	長野	自然	自然	悪い：命令さ れている感じ がする	良い	自然
76	1985-1999	女	東京	自然	自然	自然	自然	自然

新表現の使用に対して母語話者が感じる不適切感

回答者	生年区分	性別	出身地	A①	A②	A③	A④	B
77	1985-1999	女	神奈川	自然	自然	悪い：ひとりで話を終わらせてしまっている。でも感じが悪いまではいかない	悪い：くどい。くどいだけ	自然
78	1985-1999	女	千葉	悪い：強要されている感じ	良い	良い	良い	自然
79	1985-1999	女	東京	良い	悪い：～（も）よろしいでしょうか	自然	良い	自然
82	1985-1999	女	東京	悪い：上目線だから	自然	自然	良い	自然
80	1985-1992	女	千葉	自然	自然：へり下りすぎな感じもする。「いいえ」と答えるすきを与えそう	自然：その人の謙虚さが表れている。相手に返答の選択権があることを示している感じ	自然：長い	自然
81	1985-1992	女	神奈川	自然	自然	良い	自然	自然
83	1985-1992	女	埼玉	悪い：ないでしようかが不自然	良い	自然	良い	自然
84	1985-1992	女	千葉	自然	良い	自然	良い	自然
5	1980-1984	女	東京	自然	悪い：「いいですか」で十分	自然	悪い：「お願いできますか」で十分	良い
87	1980-1984	女	沖縄	自然	良い	自然	良い	良い
35	1975-1979	女	埼玉	自然	自然	悪い：依頼されている感じがしないため	良い	良い
20	1965-1969	女	兵庫	自然：他人行儀で、否定の「ない」が入っているが、まあまあ自然	自然	自然：まあまあ自然	まあまあ自然	自然
34	1965-1969	女	千葉	自然	悪い：少々押しつけがましい感じ	悪い：選択の余地がない感じがする	悪い：回りくどい。「お願いできるでしょうか」は変な感じがする	自然
1	1960-1964	女	東京	自然	自然	悪い（押しつけがましい）	悪い（押しつけがましい）	良い
3	1955-1959	女	神奈川	自然		自然	良い	良い

回答者	生年区分	性別	出身地	A①	A②	A③	A④	B
30	1955-1959	女	埼玉	良い	良い	悪い：行かなくても大丈夫の意味にもとれてしまう	親しい間柄では回りくどく丁寧すぎる	自然
32	1955-1959	男	栃木	良い	悪い：断れないような印象	悪い：断れないような印象	良い：「お願いできないでしょうか」の方がベターだと思う	良い
2	1950-1954	女	神奈川	自然	自然	自然	良い	良い
4	1950-1954	女	山形	自然	自然	自然	悪い：くどい	自然
14	1950-1954	女	神奈川	自然	悪い：ストレートでない	悪い：自己中心的	自然	自然
16	1950-1954	女	神奈川	自然	少々悪い：回りくどい & 少々押しつけがましい	少々悪い：少々押しつけがましい	自然	自然
24	1950-1954	女	神奈川	良い	良い	自然	良い	自然
25	1950-1954	女	東京	自然	悪い：いいでしょうかではない	自然	自然	自然
26	1950-1954	女	神奈川		悪い：押しつけがましい感じ	悪い：断定的、一方的な感じ	良い	良い
31	1950-1954	女	東京	自然	自然	悪い：相手の都合を尋ねる姿勢が感じられない	良い	自然
38	1950-1954	女	東京	悪い：人に依頼する場合まず聞くべき相手の都合を考慮していない。メールは時間等に関係なく一方的に送信し相手の見る時間も予測できないので、今回のような場合当日であるとすれば不適切に思う	悪い：前提に自分が行けないことは当然だからというニュアンスが感じられる	自然：申し出をする前に他の手段を考えたができなかったことを伝えた方がいいのでは？	良い：①から④のなかでは良いほうだと思う。但し、NPOの団体の責任者（講演会）にまず連絡を指導対応するかを考えるべきで個人的に自分の役割を依頼するのはどうかと思う。設定自体に問題あり	自然

新表現の使用に対して母語話者が感じる不適切感

回答者	生年区分	性別	出身地	A①	A②	A③	A④	B
68	1950-1954	女	栃木	自然	悪い：相手の意向をうかがうのでなく、きめつけている言い方	良い：この場合、相手の返事待ちですよね？	良い：この場合は「できるならメールの相手に行って欲しい」という強い意志が感じられる	自然
85	1950-1954	女	東京	良い、自然	悪い：お願いしているようでいて、決めつけられている気がする	悪い：お願いしているようでいて、決めつけられている気がする	良い、自然	良い、自然
86	1950-1954	女	神奈川	自然	悪い：横柄・命令的	悪い：いただけると助かるは高圧的で脅迫的	助かるは高圧的	自然
21	1945-1949	男	大阪	自然	悪い：命令口調	悪い：決めつけ	良い	自然
29	1945-1949	女	東京	自然	悪い：指定しているのをお願いする場合は	自然	良い	自然
51	1945-1949	女	愛知	良い：いい感じ	悪い：若い人の言葉。レストランの若いウェイター（男）が使いそう。わざとらしい。違和感あり	良い：「助かります」という部分が特によい	悪い：くどい。行く気にはなるが	良い：ふつう使うことば
52	1945-1949	男	大阪	自然	自然	自然	良い：自分の気持ちを自然に出している親しい間柄	良い
69	1945-1949	女	新潟	自然	悪い：	悪い：	良い	良い
7	1940-1944	女	新潟	自然	悪い：「他にも方法があって、あまり重要でないのかな」と感じる	悪い：命令されているみたい	悪い：まわりくどい	自然
9	1940-1944	女	神奈川				良い	自然
10	1940-1944	女	熊本	自然	悪い：友人関係としては、へりくだって親近感が希薄	良い	悪い：丁寧すぎよそよしい	自然
17	1935-1939	女	東京		悪い：なんだか違和感がある	自然	自然	良い

回答者	生年区分	性別	出身地	A①	A②	A③	A④	B
18	1935-1939	女	東京	自然	「行っていた だいてもよろ しいでしょう か」と言う	自然	良い	良い
22	1935-1939	男	神奈川	自然	悪い：命令口 調である、 「も」の使い 方が変だ	自然	良い	良い
23	1935-1939	女	神奈川	自然		自然	良い	自然
28	1935-1939	女	神奈川	自然	悪い：依頼す るという感じ がない	悪い：強制さ れている感じ がある	悪い：強制さ れている感じ がある	自然
15	1930-1934	女	東京	良い			良い	良い
19	1930-1934	男	東京	自然：最初の ビジネスライ クのアプローチ では自然。他 にも当たれる 意あり	悪い：一寸強 制的な感じが 残る。駄目な ら？	自然：弱い懇 願調だが、少 し有無を言わ せぬ感じが残 る	良い：一応形 式的でも相手 の意を尋ねて いる	自然
27	1930-1934	女	大阪	自然：簡潔で メールの場合 はこれで良い かと思います	悪い：これで も良いが、少 しまわりくだ い	悪い：断定的 で相手の気持 ちを聞いてい ない	良い：丁寧で す	自然
33	1930-1934	女	DK	自然	自然	自然	自然	良い
6	1926-1929	女	東京	悪い：押しつ けがましい	自然	自然	良い	良い
8	1926-1929	女	神奈川	よい	悪い：行って くれることを 前提にしてい る	自然	良い	自然
11	1926-1929	女	愛知	良い	使わない：私 の世代は使わ ない言葉づか いだから	良い	自然：普通に 使う表現だ	良い：感謝の 気持ちが入っ ている
13	1926-1929	女	東京		悪い：相手を 信用していな い	悪い：押しつ けがましい	自然	良い
12	1920-1924	女	東京	悪い：自分な ら親しい相手 でも「行って 頂くことは出 来ますでしょ うか」と言う	悪い：命令さ れているみた い	悪い：命令さ れているみた い	悪い：命令さ れているみた い	良い。ただ、 年上の人に対 して使うと失 礼かもしれない と思うので 自分が使うと きは一瞬迷う
43	DK	男	埼玉	自然	自然	良い	良い	良い：貸して あげてよかつ たと思います